

専門科目の特徴

【総合福祉学科】

専門科目	特徴
障害者福祉論Ⅰ	本授業の目的を達成するために、資料や事例を提示し、理解しやすいような工夫を試みる。その際、単なる項目の理解にとどまらず、制度やサービスの必要性やその効果などについても、受講生と共に考察したいと考えている。
老人福祉論Ⅰ	高齢者の心身の特徴や高齢期の心理・社会的特性を理解し、高齢期の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について考察する。現代社会における高齢者福祉の意義と諸問題について学ぶ。高齢者保健福祉の発展と関連法体系について学ぶ。
精神保健福祉支援論	精神保健福祉士受験資格を得るための必修科目である。精神的な疾患や障害のある方々の生活を支援する理念や制度の現状と今後の課題を学ぶ科目である。基本的には教科書に沿って授業を展開する。理解を深めるために映像教材や模擬事例、学術論文や実践報告などを用いる。
生活支援技術Ⅰ	生活支援とは何かを理解し、利用者の生活を支援する意義を理解したうえで、調理、洗濯、住居・衣類・寝具などの衛生管理、買い物・家計管理など、家事の介助に関する基本的な知識を学び、利用者の個性に対応出来るよう演習・実習を取り入れ、技術を身につける。
生体計測装置学Ⅰ	生体計測装置は単体で使用するもの、治療機器と共に使用するもの、ICUやCCUあるいは手術室などで医療システムの中に組み込まれて使用するものなど極めてその使用範囲は広い。本授業では、生体計測装置の基礎的な原理・構造は無論、生体という計測対象の特異性について、また変動する測定データの評価方法について理解する。
病理学	<p>病気は、最初から病名を持って存在していたわけでも、種類分けされていたわけでもない。病理学は、個々の病気概念をはっきりさせ、病気を分類して体系化するとともに、病気の発症や進展の機構を明らかにする役割を果たしてきた。ここでは、生物学的な医学が、病いという現象をどうとらえているかを理解し、必要な基礎的医学知識を得る。</p> <p><授業方法></p> <p>人体に発症する様々な疾患について総論的に講義する。各疾患に見られる基本的あるいは共通的な所見について形態学的特徴を主体として教授する。このことより、各疾患の基本的な知識を分かりやすく理解させる。</p>

専門科目	特徴
医用システム・制御工学	システムの定義とこれに関連する諸事項を整理し、様々なシステムの構成と考え方について十分理解できるように講義を行う。さらに、医用機器に用いられる自動制御機構を理解する目的で、自動制御の基礎理論およびフィードバック制御の考え方を学ぶ。
臨床実習Ⅱ	臨床工学技士として業務に従事するため、血液浄化業務、人口心肺業務、人口呼吸業務、高気圧酸素療法業務、集中治療室業務および手術室業務、医療機器管理業務などの臨床業務についての実際のスキルを学習する。特に、臨床での手技、機器の操作、心構え、患者や医療スタッフとの接し方を経験し、医療従事者として活躍できるだけの基礎的な知識、技術を習得する。
バイオメカニクス	バイオメカニクスの内容の多くの中から、スポーツに直接関わる部分についての理解を深める。特に、運動する身体の構造、力学的諸法則、身体運動の記述の方法、力学的法則に支配される身体運動を理解し、「よい」動きとは何かについて考察する。
障害者スポーツ論Ⅰ	<p>①障害者福祉、社会福祉、障害者福祉施策の概念について理解し、障害者スポーツの理解を学習する。</p> <p>②障害者スポーツ指導者の制度、および関連機関との差異・関連性について理解する。</p> <p>③障害者を支援するボランティア活動の基本精神について学ぶ。</p>
福祉スポーツ演習	高齢化が進む中、健康の確保と生きがい作りが大きな課題となる。その手段の一つとしてレクリエーション活動、スポーツが大きな意味を持つと考えられる。本授業では高齢者や障害者をはじめとしてすべての人が楽しめるレクリエーション・福祉スポーツのプログラム作成・指導法を習得することを目的とする。
コーチング論	<p>『コーチ』とはもともと四頭立て馬車を語源とし、「目的を持った人を目的地まで運ぶ、導く」ことを意味している。従って、『コーチング論』はその方法論であると言える。</p> <p>この授業では豊富なスポーツ現場を背景にし、基本的なコーチの存在形態や意義、コーチングの目的等について学習する。同時に、初心者からトップアスリートを対象に、体育・スポーツ指導者としてのコーチングの体質を理解し、基本的知識を身につける。</p> <p>また、現実の教育現場・指導現場の実態や具体的事例を提示しながら、理想と現実の実態を把握し、実践的コーチング法を学ぶ。</p>